

## 難コンディションのサバイバル戦でクラス3位入賞 2019年全日本ラリー選手権第5戦 MONTRE 2019

日頃はプレイドライブ全日本ラリー選手権参戦プロジェクトに多大なるご理解とご協賛をいただきまして、誠にありがとうございます。

「PD YH ノート e-POWER ニスモ S」は、6月6日（木）～9日（日）に群馬県吾妻郡嬭恋村を拠点に開催された2019年全日本ラリー選手権第5戦「MONTRE 2019」に参戦いたしました。

今季は FIA アジア・パシフィックラリー選手権との併催となり、競技規模が昨年よりもさらに拡大されたグラベル戦ですが、関東圏はこの週末に梅雨入りを迎え、気候が不安定ななかでの開催となりました。日産ノート e-POWER NISMO S での3戦目を迎えた伊藤隆晃／大高徹也組は、競技初日となる8日（土）、雨が降りしきるコンディションの中、ショートステージでベストタイムを連取。ロングステージでは苦戦を強いられながらも、この日はステージウインを4本獲得し、JN6 クラス3番手で折り返しました。この日の雨は翌9日（日）の路面コンディションにも影響を残し、ラリーもアクシデントが続出するサバイバル戦に。伊藤／大高組もターマック区間で前走車をパスした直後にコースオフし、コースには復帰するもののタイロッドを曲げる憂き目に遭います。その後も、荒れた路面とマシンの挙動のバランス取りを模索しながらも、SS16 (9.77km) では6回目のベストタイムをマーク。クラス2番手まであと1.0秒差にまで迫りました。最終的にライバルの逃げ切りを許しましたが、波乱のラリーを全ステージ走り切った伊藤／大高組は、JN6 クラス3位でフィニッシュし、入賞を果たしました。



### ドライバー 伊藤隆晃のコメント

「上りのステージではバッテリーが早くなくなってしまう、全開で踏んでもタイム差が出てしまいますが、フラットでツイスティなところで回生を活かした e-POWER ならではの走らせ方が分かってきました。速度が乗るところや荒れた路面でサスペンションとブレーキセッティングの課題が見えてきたので、そうしたエリアの対応を詰めていければ、さらにタイムを稼ぐことができていると思っています。上りの SS に苦戦を強いられましたが、そのなかですべてのショート SS と約 9km のステージでベストタイムを出せたのは大きな成果だと思います」

### JN6 クラス リザルト

順位	ドライバー	コ・ドライバー	車両名	タイム／差
1	大倉 聡	豊田 耕司	アイシン AW Vitz CVT	1:41:17.6
2	いとう りな	大倉 瞳	YH ブリッド AW オクヤマ VITZ	+3:36.6
3	伊藤 隆晃	大高 徹也	PD YH ノート e-POWER ニスモ S	+3:40.8
4	中西 昌人	福井 林賢	YH・WM・KYB・SPM・くまモン・8	+5:43.4
5	クロエリ	多比羅 二三男	CUSCO YH DAIWA FIT	+8:12.4

参加台数 5 台、出走 5 台、完走 5 台

# ブレイドドライブ

## メカニックとして参加された日産自動車大学の学生たち

日産栃木自動車大学校より4名の学生が参加し、ラリーサービスを経験しました。3日間にわたり、限られた時間のなかでラリーカーの整備や経験を積みました。



### 阿久根佑亮さん スポーツメカニクス科3年

「天候やクルマの状況がころころ変わるので、クルマの汚れ方や作業にかかる時間も変わっていき、3日間、過酷な作業でした。右フロントを担当し、エア抜きのパダルを踏む作業も行いました。学校で練習していきましたが、タイヤハウス内が想像以上に泥だらけで、ナットが泥で埋まっているほどでした。プロのメカニックさんは、動きに無駄がないと思いました。学校の活動で耐久レースにも出ているのですが、クルマが壊れる状況に遭うこともあるので、そこに活かしていきたいです」



### 増田晃大さん スポーツメカニクス科3年

「子供の頃にF1を観てモータースポーツに興味をもちました。ラリーに参加してみて、サーキットとはマシンにかかる負担が違うので、チェックする場所も工具の当て方も違います。砂利や泥でクルマが汚れるし、作業場もコンクリートではないので、それもラリーの過酷さだと思いました。制限時間のなかでどれだけ早く正確に作業できるかの勝負なのだと、あらためて感じました。就職先はディーラーですが、お客様をお待たせしないように頭に入れて作業していきたいです。緊張感があって、いい経験ができました」



### 星野颯希さん スポーツメカニクス科3年

「ラリーは動画でも見ていたので、おおよその覚悟はしていましたが、実際にやってみると大変でした。必死だったので、記憶があまりありません。普段は時間に縛られずに作業しているので、制限時間のなかで対処するのは大変でした。リモートサービスの峰の原では、異音がするというのでクルマの下に潜って作業しましたが、新鮮で楽しかったです。プロのメカニックの方たちは、少ない人数でテキパキ作業してすごいなと思いました。今回の経験は自分たちのレース活動でも活かしていきたいです」



### 大山英幸さん スポーツメカニクス科3年

「雨の中、とても過酷なラリーでした。好奇心で参加してみましたが、最初は何をしていいかわからないほどでした。タイヤの脱着とブレーキのエア抜き、ジャッキをやりました。学校でラリーに向けてあらかじめ準備をしていきましたが、実際に現場で作業を行うのはなかなか大変でした。プロのメカニックの方々の作業はテキパキと無駄がないことに驚きました。部活で耐久レースに出ているので、今回の経験はその活動に活かすことができると思います。とても新鮮な経験でした」

次の参戦は、7月26日（金）～28日（日）に秋田県横手市周辺で開催される第7戦「横手ラリー2019」（グラベル）です。引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。